

2018年01月02日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【あけまして、おめでとうございます】

あけまして、おめでとうございます。

本年(2018年)も、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、今日は、1月2日火曜日です。

東京市場は、お正月の三が日で、休場ですが、海外市場は、1年のスタート(初日)のマーケット(外国為替市場)として、通常通りにオープンしています。

2018年1月2日火曜日のアジア市場は、昨年末のニューヨーク市場クローズと同じ位の水準で始まっています。

今年(2018年)の前半の特徴を示唆しているのでしょうか、以下の点が、目立っていると感じます。

ユーロ/米ドル、ポンド/米ドル、豪ドル/米ドルは、それぞれの通貨が、対ドルで、強い状態でスタートした。

つまり、それぞれ、

「ユーロ高/米ドル安」

「ポンド高/米ドル安」

「豪ドル高/米ドル安」

で、スタートした。

いずれも、「米ドル安」で共通している、ということ。

それに対して、米ドル/円は、昨年末のニューヨーク市場クローズと比べて、わずかながら、「米ドル高/円安」気味に推移している。

それは、「米ドル高」と言うには、難しい程度の変化に過ぎないが、そのわずかながらの「円安傾向」が、結果的に「クロス/円」相場を、高く誘導しているように映る。

つまり、結果的に、「クロス／円」は、
「ユーロ高／円安」傾向、
「ポンド高／円安」傾向、
「豪ドル高／円安」傾向、
で、今年のアジア市場がスタートしたように映る。

今年（2018年）のマーケット（外国為替市場）は、まだ、始まったばかりで、これから、大きく紆余曲折があるのだろう、と考えています。

だから、この年初の値動きを、あまりにおおごとに捉えるのは間違っているのかもしれない。

しかし、この静かなスタートの中にも、今年（2018年）の特徴を示唆するところがあるのではないかと、とも考える次第です。

今すぐに、断定する必要もない、と考えます。

ただ、意識を持って、マーケット（外国為替市場）に向かう必要はありそうです。

今年も、真摯にマーケット（外国為替市場）に臨みたい、と考えています。

本年も、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

+++++

（2018年01月02日東京時間11:45記述）